

エイジングケア・シリーズ

ペットは感染しないのでしょうか？

新型コロナから ペットを守れる？



野崎 隆志
(のざきん)

エイジングケア専門ヘルスコーチ

読者限定
個別相談権
特典付き！



なぜ？ どうして？

新型コロナは、動物から人間に
うつったんだよね？

**あなたのせいでペットが死ぬかもしれない
ペットのせいであなたが死ぬかもしれない
これで安心！！**

**新たな変異にも備えて、ペットを含めた
家庭内感染対策をご紹介します**

■著作権について

本冊子と表記は、著作権法で保護されている著作物です。本冊子の著作権は、発行者にあります。本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本冊子を入手した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第 1 条 本契約の目的:

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第 2 条 禁止事項:

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第 3 条 損害賠償:

甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第 4 条 契約の解除:

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第 5 条 責任の範囲:

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

■注意

— 目次 —

1 章：ペットが感染している実態

2 章：最悪のシナリオ

3 章：ワクチンだけでは心もとない理由

4 章：飼い主とともに免疫力を高める画期的な方法

新型コロナから ペットを守れる？

第1章

ペットが感染している実態



- 海外では、既にペットのワクチン接種が始まっています。（上の写真）
- 飼い主が急に入院してしまったら、ペットはどうなるのでしょうか？
- 猫ちゃんは水が飲めないだけで、腎臓を痛めてしまいます。
- 「だから、ワクチンを打ちました」という飼い主さんも多いでしょう。
- そして、ワクチンを打っても入院する事例もあるようなので、念の為「預かり先」を決めた方もおられます。
- ところが、それだけでは心もとないようです。
- もし、あなたのペットも感染しているとしたら、預かってもらえるでしょうか？

- 「家庭内感染が多い」 それならペットは？
- 最初に浮かんだ疑問です。
- SARSはハクビシンから、MERSはフタコブラクダから、新型コロナはコウモリから？というように、動物から人間に感染したと聞いていますよね？
- 驚いたことに、ACE2受容体を介して感染する可能性がある哺乳類は多く、調べてみたら32種の動物が感染しやすく、すでに感染していることも判明していました。
 - [イヌ・ネコ以外に新型コロナ感染リスクがあるのは？動物215種のACE2を調査](#)
 - [ペットの犬や猫のコロナ陽性率、飼い主が感染者なら約2割＝オランダ研究](#)
- そして、変異したウィルスが毛皮用に飼育されていたミンクに感染して、ミンクから人に感染したことが判明して、デンマークだけで1,700万匹ものミンクが殺処分されています。
- 日本は、犬の飼育数は849万匹、猫の飼育数は944万匹です。
- ウサギやハムスターも多くいるはずです。
- おたくのペットは大丈夫ですか？

新型コロナから ペットを守れる？

第2章

最悪のシナリオ



- あまり想定したくないですが、リスク管理として最悪のシナリオを考えておきましょう。
- 1. あなたが発症して入院すると、面倒をみてもらえない犬・猫は死んでしまう
- 2. 感染力が強いウィルスが流行すると、変異が起こりやすく、動物間、動物と人間の間で感染を繰り返すようになりワクチンも効かなくなる
- 3. ウィルスを保有するペットが屋外で、他のペットに感染させて動物間で感染が進みペットを介した感染が広がる
- 4. ペットの感染状況がわからないまま、ペットを隔離する必要がでてくる
- 5. ペットと長く接する高齢者が、感染して犠牲になる
- 6. 特効薬の開発が遅れて、ペットの重症化が多くなった場合、殺処分しか手段がなくなる



- 動物は、人間のように会話できません。濃厚接触者を追ってクラスターを潰していくようなアプローチができません。
- 家庭で飼われているペットの多くは、行動制限されていますが、猫には屋外に出かける習性もあります。
- 空気感染以外にも、糞便を介した感染の可能性も示唆されています。
- 感染は避けられないものであり、ワクチンも含めた免疫力の強化でしか、身を守る方法はありません。
- ペットの基礎疾患も増えてきているようです。
- ペットと飼い主ともに、少しでも免疫力を高めることに配慮してあげる必要があります。

新型コロナから ペットを守れる？

第3章

ワクチンでは心もとない理由



- 現代は西洋医学が目覚ましい進歩によって、簡単には死なない時代になりました。
- 外科手術の高度化、クスリの発展には目覚ましいものがあります。
- 外科医は縫い合わせた傷口が自然に治癒することから、**自然治癒力**をもっとも理解している方々だと言われています。
- 内科医も、徐々に**クスリが効かなくなる耐性**を理解されているそうです。
- クスリを長く使うと、慣れてきて量を増やさないと効きが悪くなるんですね。
- ワクチンも最初は効果が大きいですが、期待よりはるかに早く効果が下がることがわかってきました。



- ワクチンの安全性もまだ未確定です。
- 有効なクスリも待たれます。
- ウイルスの薬は、以下の3タイプに大別されます。
 - ① 細胞への侵入を阻害する
 - ② 細胞内での増殖を阻害する
 - ③ 細胞外への放出を阻害する
- 残念ながら、不活化する能力はありません。
- そこで必要になるのが、**不活化できる唯一の手段としての、誰もがもつ免疫システム**です。
- 免疫力が低下している高齢者の免疫システムにも、**自身を重症化させるほどの力**があります。これをうまく機能させる必要があります。



- 上図のスイスチーズモデルで説明されるように免疫システムは、**多段階な総合力**です。
- それぞれの段がしっかり防御することで、鉄壁の防御が可能になります。
- 残念ながら1段だけの鉄壁はあり得ません。
- ワクチンも、獲得免疫の1つである抗体を作る重症化防止策になります。
- さらに、重症化に関わる免疫暴走の制御には**グルタチオン**の量が必要になります。
 - COVID-19患者の深刻な症状と死亡の最も可能性の高い原因としてのグルタチオンの内因性欠乏（米国国立医学図書館2020年5月）
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7263077/>
- 自身の免疫システムは万能です。
変異株にも対応できます。

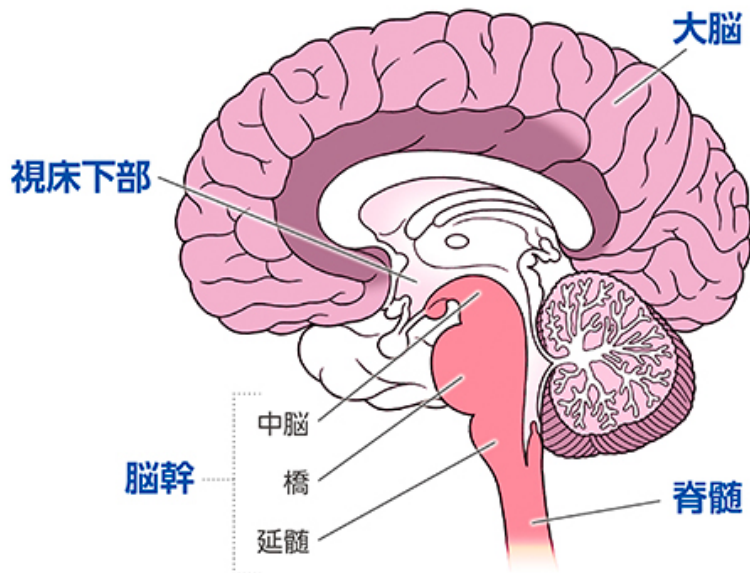
新型コロナから ペットを守れる？

第4章

飼い主ともに免疫力を高める画期的な方法



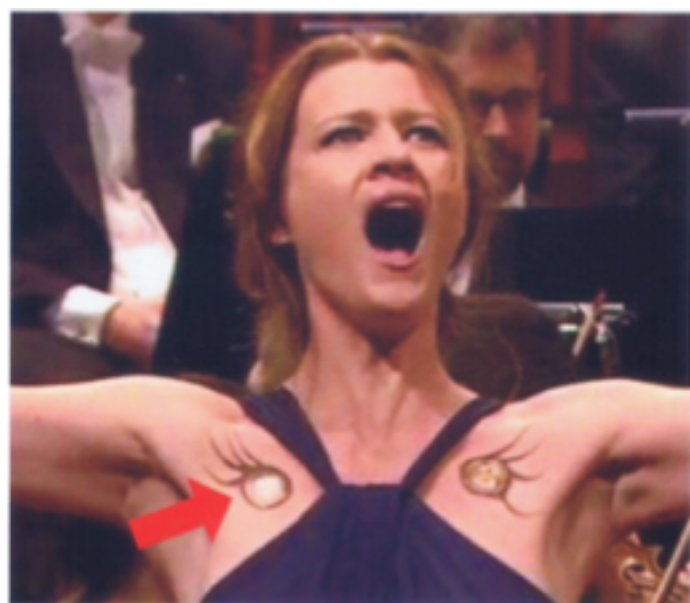
- クスリに頼れない場合の治療方法として、東洋医学のアプローチが有用です。
- 東洋医学も、科学的な裏付けがでてきました。
- 抗がん剤の副作用などクスリが使えないシーンでは、鍼灸が世界中で使われているようです。
- そのため、ツボや経絡の表記を**WHO（世界保健機構）**が管理するようになっていきます。
- 東洋医学の基本は「流れの改善」です。体内には血液をはじめリンパ液などさまざまは流れがありますが、この流れが滞ることで不調が生じます。
- この流れの滞りが「こり」として現れます。
- この「こり」をほぐすことで、脳からの指令が行き渡るように「流れの改善」をします。



- 科学的に解明が進むことで、鍼灸に代わる科学的な刺激によって、より精度の高い効果が期待できるようになりました。
- ツボが脳につながっていることも解明されました。
- 学問的には、2017年にPhotobiomodulationとして体系化されています。
- 東洋医学は安全に感じる人が多いと思いますが、鍼を刺したり、お灸で火を置くことは怖くないですか？
- 特に、子供や動物相手には躊躇される人が多いのではないのでしょうか？
- 早く終息したとしても、次にどんなウィルスや細菌が現れるかわかりません。長く使っても安心・安全なものを使いたいものです。



- 上のLifeWave社のパッチは、さまざまな「こりの改善」に適用することができます。
- パッチを皮膚または衣服の上から貼るだけです。
- 薬効がまったくなく、鍼灸のように鍼で刺したり熱を加えることのないパッチで、皮膚の神経を穏やかに刺激することで、脳を介して身体が反応するもっとも安全な仕組みを利用しています。
- 年齢とともに増えた「こり」を解消すると、減っていた様々な物質の生合成量が回復します。
- このパッチは、**グルタチオン**をはじめ、免疫システムの強化につながる物質の生合成量の変化に関して**エビデンスがすべて公開**されています。
- そして、**ペットにも人間と同じツボや経絡があります。**



新型コロナからペットを守れ©TurtleSystem

新型コロナから ペットを守れる？

最後に

最後までご覧いただき 誠にありがとうございました。

人間だけでなく、犬や猫たちペットも
長生きできるようになってきています。

しかしながら、高齢なペットの免疫力が
弱いのは人間と同じです。

まずは、飼い主であるあなたが強くなって
そして、ペットも強くしておくこと。

その両方が叶うのがLifeWaveパッチの力です。

小型動物に強すぎる時は人間が使ったパッチを使うのもおすすめです。

パッチを活用して、ペットとともに
長生きしましょう！

[単品購入のご紹介はこちら](#)

Country=Japan、Language=Japaneseを選択して「SUBMIT」
メニュー「製品」→「すべての製品」メニューへお進みください



[個別相談のご依頼はこちら](#)

お得な購入方法や製品到着後の使い方など何でもこちらから
お問い合わせください
Facebookグループ、ZOOM入門セミナー等へご招待いたします

